公立図書館司書　受験体験記

大学院　文学研究科　史学専攻　博士前期課程２年
西川　春菜

私は公立図書館の司書になるべく、今年度の採用試験を受験してきました。ここでは試験に向けての勉強法や、受験する中で感じたことなどをまとめていきたいと思います。

志望動機

私は現在大学院に在籍しており、司書資格は学部在籍中に取得しました。しかし大学院に進学し学ぶ中で、専門的資料の提供や、学術研究の成果を広く社会に還元することに興味を持ち、司書として働きたいと思うようになりました。そこで公立図書館、特に専門的資料の提供を担う県立図書館の司書を第一志望として、試験に向けて対策を進めました。その結果、幸運にもA 県職員採用試験の司書職に合格することができました。

試験内容

公立図書館の司書採用試験では、1 次試験として筆記試験、2 次・3 次試験として面接・集団討論・論文試験などが課されることが多いです。そこで各試験について、勉強法と試験を受けて感じたことをまとめていきたいと思います。

筆記試験（教養試験）

公務員試験では、教科数の多さによる対策の難しさなどから、予備校に通ったほうがいいという事がよく言われます。しかし私は独学で勉強することに決め、まずは試験の概要を知ることから始めました。その際とても参考になったのが、公務員試験の概要をまとめた市販の本です。公務員試験の概要はもちろん、独学での勉強法や、勉強計画のモデルパターンなどが詳しく載っている本もありました。わたしはこれらの本を参考に計画を立て、勉強を進めました。また各出版社が出している参考書の書評が載っている本もあり、選ぶ際にはとても参考になりました。また勉強計画をただ進めるだけではなく、時々過去問を解くことで、勉強の進み具合を確認し、また試験へ向けての意気込みを新たにすることができました。

以上のように勉強を進めましたが、試験では時間が足りなくなり、解けなかった問題がいくつかありました。時間配分がうまく行えなかったためです。予備校が主催している模擬試験などを利用して、実際の試験になれることが必要だったと悔いが残りました。

筆記試験（専門試験）

公立図書館の司書採用試験では、専門試験がない場合もありますが、課される場合はもちろん図書館学に関する問題になります。

各団体のHP などで公開されている過去問題を見ますと、司書課程の授業で学んだ範囲の内容がほとんどです。そこで私は授業の教科書やプリントを利用して勉強を進めました。特にプリントは先生方が要点をまとめてくださっているので、内容が頭に入りやすく、とても役に立

ちました。

また、司書・司書教諭課程室で毎月行われている勉強会にも参加してきました。現役の司書の方が講師となり、専門試験対策の他、面接試験の指導もしていただけるため、とても参考になりました。また実際の仕事の様子を聞いたり他の参加者と話すことで、自身の志望を見つめ直し、自分にあった受験計画を立てることができました。

論文試験

司書の試験ですので、図書館に関するテーマが多いようですが、行政一般に関するテーマが課されることもありました。

対策としては、公務員試験の論文対策の参考書を買い、それを基に勉強を進めました。予想される各テーマについて自分なりの解答を作る練習を行いましたが、まったく違うテーマが出される可能性も大いにあります。そこで各種のテーマからその問題点をつかみ、その背景や現状を考察し、それに対する自分の考えをまとめる、という過程をすばやく行えるように練習を積みました。またその際には、自身の文章を書くスピードを把握しておき、どのような分量・制限時間の試験でもすばやく時間配分が行えるようにしました。

集団討論試験・面接試験

市販されている対策本を読み、それぞれの試験の内容やそのポイントなどを知ることから始めました。またその後は、想定される質問に対して自分なりの答えを考える、という対策を行いました。

しかし実際の面接試験では、ひとつの内容に対してもさまざまな角度から質問がなされ、また思っても見なかった質問を受けることもありました。質問に対する答えを考えるだけではなく、これまでの体験や出来事をよく思い出して、その内容や特徴、感じたことなどを整理しておくことが必要だと感じました。また出身地以外の試験を受験した際には、なぜその図書館、または地域を選んだのか、という点を詳しく聞かれました。

最後に

ここまで私が受験した試験の様子を中心にまとめてきました。しかし公立図書館司書の試験といっても、本当にさまざまな試験の形態があります。また求められる人材にもさまざまな違いがあるということを、試験を受ける中で実感しました。ひとつの試験では不合格でも、自分にあった試験や自分を求めている図書館があると信じて、あきらめず次に向かって挑戦していくことが、合格を得るために必要なことだと感じました。

【出典】『明治大学司書・司書教諭課程年報』No.11，2011.3，p.84-85.

図書館職員受験体験記

文学部　文学科　４年
青野　正太

はじめに

私は今年司書職の職員採用試験を受験し、都道府県立の図書館に採用されることになりました。その試験の概要や、私自身の受験の姿勢について書いてみたいと思います。一受験者の体験談として、司書職の公務員試験を受験される際の参考にして頂ければと思います。

公務員試験・司書職の概要

一般に、公務員試験は１次で筆記、２次で人物試験が課されます。筆記は、司書職では主に教養試験と専門試験で構成されます。

それらに加え論作文が課される、１次の段階で面接を行なう、専門試験がない、２次以降に専門試験があるなど、様々な場合が見られますので、申込前に必ず受験案内で確認しましょう。

人物試験の主な選考方法は面接です。個別面接が主ですが、集団討論を課す所も増えているようです。

加えて、論作文を２次に課す所や、YG 性格検査や内田クレペリンなどの適性検査を行なう場合もあります。こちらも受験案内で確認し、それに応じた対策をとるとよいと思います。

教養試験の対策

教養試験は非常に科目数が多いので、数的処理・文章理解など出題数が多かったり、地理・歴史など習得に時間がかかったりする科目からとりかかるのが一般的です。私は数的処理をとにかく毎日解くように心掛けました。

また、数学や物理・化学など文系学部の学生には苦手意識のある科目も含まれますが、これらの科目は難易度が非常に低いので、少し勉強しておくと、思わぬ得点源になる可能性があります。高校時代苦手だったからと諦めず、すべての科目をまんべんなく勉強しておくことが必要だと思いました。

解答時間に余裕がないので、予備校などが実施している模擬試験を通して、時間配分や解く順番を決めておくとよいと思います。苦手な分野の把握ができたり、問題と解説自体が勉強道具になったりもしますので勉強の進度にかかわらず積極的に受験することをおすすめします。

専門試験の対策

司書職の専門試験は図書館学が出題されます。難易度としては、司書課程のテキストの範囲を出ない出題がほとんどです。択一式だけでなく論述式の試験も多く、単なる暗記よりも理解が求められる場合が多いと感じました。

司書課程の科目からの出題が中心となりますので、大学の授業を真剣に受けることが基本的な対策になります。私は単位を取得したけれど知識が定着しなかった科目については、別の先生の同じ科目を聴講していました。講義を聞くことは、独学の場合より図書館学を体系的に理解できると思います。是非授業を有効活用して下さい。

一方、図書館・社会教育関係法規など、頻出ではありますがあまり授業では扱われない部分や、図書館の時事的な問題については自分で学習したり、勉強会を活用したりしました。最新事情の把握には、国立国会図書館のウェブサービスである「カレントアウェアネス・ポータル」[1]などが役立ちます。

ただし、専門試験を課さない場合や、行政職の専門科目が出題される場合もあります。

面接(人物)試験対策

司書職の試験は採用人数が極端に少なく、1人、2人程度の枠を争う場合が多いため[2]、面接などの人物試験の対策は重要だと思います。

私は、今後図書館はどのようにして利用者の支援をしていくべきなのか、図書館にはどのような問題があり、それを解決するためには図書館員はどうすればよいのか、といった図書館のビジョンについて常に考えるよう心掛けました。

実際の面接においては、大学生活において何を経験し、それによってどんな能力を身につけたか、それを図書館、あるいは行政でどのように活かせるかという自己PRが重要です。単に「図書館で働きたい」ではなく、その図書館でなければいけない志望理由も大事だと思います。その図書館に実際に足を運んでよい所、悪い所を見つけておくなど、入念な調査をすることはもちろん、その地域に住んでいる友人がいたら図書館利用の感想を聞く、などその自治体・図書館についての「生の声」を聞いておくとよいと思います。

[1] http://current.ndl.go.jp/

[2] 私が受けた試験で最も倍率が高かった試験は、最終倍率115倍程度でした。

「司書職採用試験対策のための勉強会」

明治大学では、司書・司書教諭課程室で、明大OBで図書館員をなさっている方を講師として、月1回勉強会をしています。
過去問や頻出分野について扱いますので試験に直結した学習が可能ですし、図書館の現場についてのお話も聞くことができます。面接対策などもして頂き、様々な面で役立ちました。

学内の掲示板や、明治大学図書館情報学研究会のHP[3]に日程を掲載しています。学生だけでなく、明大OB・OGの参加もよく見られます。司書になりたいとお思いの方は、学生の方も、OB・OGの方も気軽にいらして下さい。

私の採用試験受験の姿勢

司書職は試験の回数も採用人数も少ないので、民間や行政・事務職の公務員試験と併願することをおすすめします。もし司書職以外受験しない場合、どこのどんな図書館であっても受ける、という姿勢が必要だと思います。

私は行政職の専門試験の勉強をあまりしなかったので、受けられる公務員試験は限定されていました。そこで、専門試験を課さない市役所、独立行政法人について受けられるものは全て受けるように心掛け、私立大学職員の選考なども受けました。

司書職の試験も、関東にとらわれず広い地域を受けるように心がけました。本命のための教養試験や面接の練習にもなりますし、地方のほうがよい図書館を設置している場合も往々にしてあります。自分に縁がないと思っている図書館についても、募集があれば積極的に受験して

[3] http://www.kisc.meiji.ac.jp/~shisyo/index.html

みることをおすすめします。

おわりに

司書職の採用試験は厳しいものだと思います。春から夏にかけて、大卒行政職と同タイミングで行なう試験、夏から秋・冬にかけて中級職(短大卒)枠として試験があるため、行政職の公務員と比べるとどうしても採用が決まるのも遅くなりがちです。私も就職活動が終わったのは11月に入ってからでした。

しかし、行政職の場合と違い、秋に入ってからも魅力的な図書館の採用があることが多い、という部分もあります。毎回の試験のフィードバックをしっかり行ないながら、最後まで諦めずに受験することが大事だと感じました。

【出典】『明治大学司書・司書教諭課程年報』No.11，2011.3，p.82-83.